

(別紙様式2-2)

平成30年度道徳教育地域支援委託事業実施報告書(平成30年度)

1 学校の概要

- (1) 学校名 三豊市立詫間中学校
- (2) 所在地 香川県三豊市詫間町詫間 5796番地 1
- (3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第1学年	第2学年	第3学年	児童生徒数計	教員数
3学級 96名	3学級 90名	4学級 115名	301名	28名

2 研究主題等

(1) 研究主題

豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育
— 人間としての生き方を考える道徳科の授業の工夫 —

(2) 研究主題設定の理由

道徳の教科化が実施される平成31年度に、本校で四国地区道徳教育研究大会が開催される。本校では、平成28年度に「道徳プロジェクトチーム」を発足し、平成29年度から「3つの道徳チーム」(教材開発チーム、道徳啓発チーム、朝の道徳チーム)を作り、全教員が学年の枠を超えていずれかのチームに所属し、学校全体で道徳教育を推進する体制を充実させてきた。その結果、道徳の時間の確保や校内指導体制が整い、道徳教育に対する教師の意識も高まってきた。

そこで、本年度はこれまでの研究の成果を継続・進化させるために、道徳的価値について自分自身との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりして、人間としての生き方を考えることができる学習指導の在り方について更に研究を深め、道徳科の授業の質の向上を図ることにした。

(3) 研究内容及び方法

校内の「道徳プロジェクトチーム」及び「3つの道徳チーム」を中心として、学校全体で以下の研究を推進する。

- ① 道徳プロジェクトの会
- ② 全教員で取り組む道徳科の授業研究(校内研修・アンケートの実施)
- ③ 学校全体で行う「朝の道徳」(イ～なの日)の改善・充実
- ④ 道徳通信「こころの玉手箱」や校内掲示による家庭啓発や環境整備の充実
- ⑤ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促す評価の工夫
- ⑥ 積極的な先進校視察と、研究会への参加

3 研究実践

① 道徳プロジェクトの会

毎週木曜日の4校時に、各学年から1名と校長、教頭の計6名で構成されたプロジェクトチームによる会を持った。

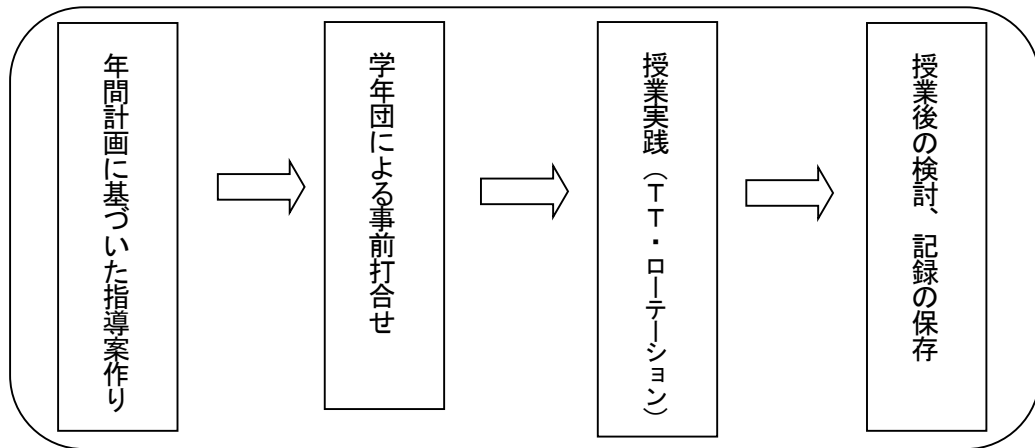
各学年の道徳の授業の取組内容や道徳の日の提案や協議などを行っている。また、先進校視察や研究会で学んできたことを報告・共有し、それを各学年団へと周知するようにしている。

② 全教員で取り組む道徳科の授業研究

昨年度から、全教員で取り組む指導体制作りとして、全学年、同一時間に道徳の時間（金4）を設定して、学年ごとに共通資料を用いたTTでの授業やローテーション授業を実施した。

各学年団とも、学年団全職員が輪番制で指導案を作成し、学年団会で事前打ち合わせをして共通理解を図った後、授業実践をしている。また、「教材開発チーム」のメンバーが、中心となって資料の作成、生徒の感想等の保存をしている。

【道徳の時間の指導のサイクル】



○ 授業風景〔3年 二通の手紙 C-10 遵法精神, 公德心〕

ふれる	「動物園へ行ったことを思い出す」
深める	<ol style="list-style-type: none"> ① ネームカードの使用 <ul style="list-style-type: none"> ・もし自分が元さんなら入園させるか。 ② ロールプレイング <ul style="list-style-type: none"> ・元さんになりきって役割演技をする。 ③ 班での話合い <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを使って話し合う。 ④ 全体交流 <ul style="list-style-type: none"> ・意見を発表し、全体で共有する。
見つめる	⑤ 振り返り



【ロールプレイング】

【振り返り】



【班での話合い】

⑤ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促す評価の工夫

○ 実施時期

平成29年度より実施しており、今年度は2年目になる。

○ 方法

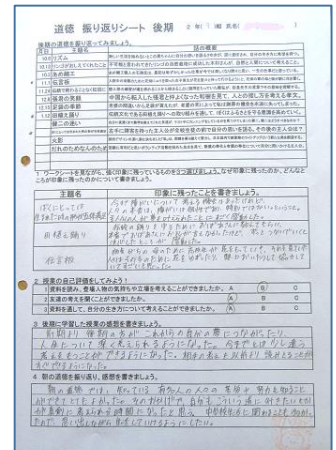
・ 道徳の授業での評価

毎時間、生徒がワークシートで自己評価を行う。また、年に2回、振り返りシートでそれまでの授業を振り返る。そして、それを綴じたファイルを家庭に持ち帰り、保護者にも意見を書いてもらう。

・ 通知票での評価（前期、後期の年2回）

毎時間のワークシートや振り返りシートを綴じている道徳ファイルの記載内容から生徒の変容や成長について文章表現し、60字程度で記載する。また、次の視点で評価することを、保護者にも道徳通信で周知している。

- (1) 道徳的価値について様々な角度から考えられるようになったか。
- (2) 道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしたか。



【道徳 振り返りシート】

⑥ 積極的な先進校視察と、研究会への参加

○ 第52回全日本中学校道徳教育研究大会兵庫大会（明石市立野々池中学校）

公開授業、指導講話、課題別分科会、記念講演などがあつた。分科会では、「道徳科における多様な指導法」をテーマにして、奈良県と佐賀県からの提案発表があつた。内容は、以下のとおりである。

- ・奈良県：「道徳の時間」における「問題解決的な学習」に向けた取組と実践
- ・佐賀県：「教科書活用の工夫」

- (1) オリジナル教材と教科書を組み合わせる
- (2) 生徒が考えたいくなる発問をつくる
- (3) 生徒の意欲を高める指導技術を使う
- (4) ローテーション道徳授業で授業力を向上させる

○ 東広島市立志和中学校教育研究会

志和中学校の取組：「考え、議論する」道徳の授業づくり

- (1) 道徳的価値を自分のこととして考えさせる工夫
- (2) ローテーション道徳の実践による指導方法の工夫と授業力の向上
- (3) 教科化における評価に向けての取組

○ 道徳ラボ研修会（教員の資質向上のための研修プログラム開発事業）

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 職員室で道徳の授業の打合せが自然にされるなど教師の道徳の授業に取り組む意識や姿勢が高まり、学校全体の道徳の授業力も向上している。
- 中心発問や追発問（補助発問）を工夫することで、生徒たちは、教材中の人物と自分たちを比較したり置き換えたりして考えを深めることができるようになってきた。

(2) 今後の課題

ホワイトボードを活用し、「考え、話し合う」習慣は身に付いてきたが、まだまだ「対話する（考え、議論する）」までには至っていない。今後は、導入の工夫やワークシートの改善による話し合う時間の確保、更には本音で話し合える環境作りにも取り組んでいきたいと考えている。